「読むこと」領域における内容を的確に捉える力の育成
－構造図を用いた作品の評価活動を通して－

会津若松市立河東学園　福島県教育センター　長期研究員　神野　杏樹

１　研究の趣旨

令和３年度全国学力・学習状況調査中学校国語の結果、「読むこと」領域における福島県の平均正答率は 48.1%であり、問題の解答類型の分析から、ものの見方や考え方が表れている部分を明確にすることができていない解答が全体の４割を超えていることが分かった。すなわち、「精査・解釈」や「考えの形成」の場面での根拠となる情報が、文章のどこにあるのか探し出すことが本県の課題である。

以上を踏まえ、本研究では、根拠と理由を明確にした上で、文章に対して自分の考えをもつ力を、「内容を的確に捉える力」とし、文章の構成や論理の展開を整理した構造図を生徒自身がつくり上げ、それを基にして評価を行うことを中心とした学習活動を展開する。文章の構成や論理の展開を把握し、形式や叙述が主張をどのように支えているのかを考えさせることにより、文章の内容を的確に捉える生徒の姿を育むことができると考え、以下の仮説を設定した。

「読むこと」領域において、以下の手立てを講じれば、内容を的確に捉える力を育成することができるであろう。
【手立て１】要点を捉えるための構成図づくり
【手立て２】段落相互の関係を捉えるための構造図づくり
【手立て３】評価の根拠・理由を明確化する場の設定

２　研究の概要

(1)　【手立て１】要点を捉えるための構成図づくり

作品を読み、その構成について簡単に図式化する活動を設定する。構成図とは、作品を成り立たせている要素にはどのようなものがあるか、大切な一文を挙げて整理したものとする。この活動によって、どの部分にどのような内容が書かれているのかを整理することができるようにする。

(2)　【手立て２】段落相互の関係を捉えるための構造図づくり

段落同士の関係と主張とのつながりを分析する構造図をつくる活動を設定する。構造図とは、作品を構成している要素同士の関係性を明らかにして整理したものとする。【手立て１】で作成した構成図を基にしながら、本論部分の事例の関係、事例の順序の意味を考えるなどして、論理の展開を捉える。これらを通して、段落相互の関係を理解することができるようにする。

(3)　【手立て３】評価の根拠・理由を明確化する場の設定

作品を評価するために、作品の書かれ方は読み手の共感を得るために有効であるかどうかを判断し、その理由と根拠を明確にする活動を設定する。自分で作成した構造図や、友達の構造図を参考にして、読み手としてその書かれ方が有効だと思うか、また、どの部分からなぜそう思うのかを明確にさせる。その後、交流活動を通して、自分と他の人の考えの違いを見いださせる。交流活動では、根拠として用いたものは適切か、理由は内容に沿ったものか、言葉を文脈に沿って理解しているかなどについて確認し、理由や根拠を明確にしながら評価を再構築させる。

３　成果と今後の課題

(1)　研究の成果

○　文章に対する自分の考えについて、文章中の根拠や理由を明確にしてまとめる生徒が増加した。
○　段落ごとの内容や段落同士の関係を把握することで、「内容を的確に捉える力」につながる傾向が見られた。

(2)　今後の課題

○　構成図で整理する場面で、各段落の内容を把握することが困難だった生徒がいた。本文の表現と構成図や構造図の整合性について考える視点をもたせるような支援を行うことで、本文の内容をもう一度読み、整理させることができたのではないかと考える。今後の実践に生かしていきたい。